

神奈川民医連・震災支援ニュース

NO.34 2011年4月5日 神奈川民医連事務局発行 電話 045-320-6371 kenren@kanamin.or.jp

ヒューメティカ 杉浦・門脇 薬剤師 つばさ 薬局で避難所の巡回調剤支援 新つるみ薬局

傷跡悲惨

復帰にはまだまだ時間が

杉浦 由崇さん報告（3/29～4/1 支援）

3月29日（火）に汐田総合病院車に、横福協職員2人（事務・看護師）と支援物資を詰め込んで出発。夜7時ころ到着、支援物資を下ろし、支援先に挨拶し、その日は終了しました。

3月30日（水）他の医療機関が診療していないため、何時もより処方箋枚数が多く、午前で400番に達するほどで、最大150番待ちのときもありました。服薬指導と言うよりは、薬を説明して渡すことに専念するというものでした。午後は、大城町周辺へ支援の医師、看護師と一緒に地域訪問へ。パーキンソン病の患者で、「昨日、薬をもらってきたが1種類少なくて、調子が悪い」と言われ、お薬手帳を拝見すると、ツムラ腸胃承気だったので、直接病気に影響ない薬なので、便秘に気をつけるよう伝えました。

3月31日（木）午前・午後・夜診とカウンター業務で薬の説明でした。坂総合クリニックは午後休診だったので、残置薬を取りに来る患者さん程度でした。

4月1日（金）移動日なので、被害のひどい七里ヶ浜に寄りました。まだ道が片付いた程度で、住宅地と思われるところは壊れた家屋とヘドロが一杯でした。七里ヶ浜から少し離れたところも損傷がひどく、店の営業や医療機関の診療はとてもできそうにない状態でした。

午後6時に汐田総合病院に到着しました。

3月11日 14時46分 ヘルパーステーションとつか

地震直後事業所付近のブロック塀が崩れ、事業所はすぐに停電、電話が普通になり、活動中のヘルパーと連絡が取れない状況、止まった信号機に注意しながら独居の利用者宅を訪問し、とりあえず皆さんの無事を確認しました。その後計画停電、物不足などサービスに様々な影響受けています。

被災者の話に胸がつまる

長期避難所生活者に新たな支援を！

門脇 恵津子さん報告（4/2～4/5 支援）

今、つばさ薬局の支援から帰ってきました。震災の影響もあり、処方箋枚数は今日だけで750枚を超えていました、先週までは、もっと多く800枚を超えて、患者さんは2時間待ちがあったようです。震災でこれまでかかっていた病院が稼動しないため、坂病院に通院される方も多いかったです。

話を聞くと、家が流された方、ご主人、奥さんが亡くなった方が何人もいらっしゃり胸がつまることも多かったです。

昨日は、避難所で医者の巡回による調剤をしました。準備されている薬が限られていて、診察にも限界があると感じました。また、避難所生活が長期化なっており、診察ではない、別の支援を考えて行く時期とも思います。



西岡 英子所長さんより

事例1 地震の影響でデイサービスが休止になり、急遽ヘルパー対応に、急な依頼も対応してくれた。訪問介護がセーフティーネットであると感じた。

事例2 「パンや米などなぜ無いんだ！」と怒る利用者をなだめながら、何軒もの店を回った。

